図書館だより　６月号

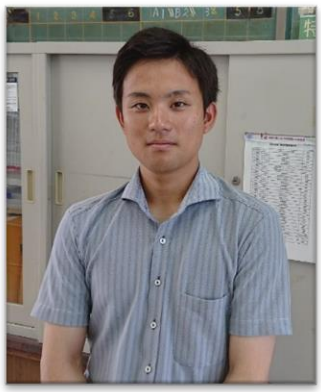
川之石高校図書委員会

じめじめした梅雨の真っ最中ですが、こんな時にこそ本を読んでみませんか。今月中に新しい本が川高図書館に入る予定です。

放課後図書室で勉強する姿もときおり見かけますが、もっと多くの人に利用してもらいたいものです。

〔新任の先生より〕

地歴公民科　浅野　零　先生



私の部屋には、本棚がありません。お洒落なカフェで、小難しい文庫本を片手にコーヒーを飲む。そんな文化的な生活に憧れながらも、読書を好きになれないまま大人になってしまったからです。ひとり暮らしをしていると、休日の過ごし方をよく聞かれます。できることなら「最近はドストエフスキーにハマっている」とでも、スマートに答えてみたいものです。漫画は好きです。それを読書と呼んでもいいのなら、私は休日、読書をしています。

実家には、本棚があります。島崎藤村、石川啄木、シェイクスピア、ゲーテ、古今東西の文学作品が、客人に見せつけるかのように並んでいます。40 年ほど前、父が大学生のころに集めたもので、とても読んでみようとは思えないほどボロボロになっていますが、一度、手に取ってみたことがあります。表紙をめくった瞬間、なじみのあるたばこの匂いで、父が今でもその本を読んでいることがわかりました。ちょうど今の私と同じくらいの年齢で、父はこの本に出会い大人になっていったのかと思うと、私の部屋に本棚がないことが、少しだけ寂しく感じられました。父がこの世を去ったとしても、母と出会うずっと前からの父の人生を、あの本棚は私に語ってくれるでしょう。私は、私が生きた証をどうやって残していくのか。大切な写真も、気に入った本も、懐かしい友人とのやりとりも、すべてロックのかかったスマートフォンの中にしかありません。いつか結婚するまでに、私が歩んできた道を知ってもらえるような本棚をつくりたい。いつか子どもを持つまでに、子どもの未来を広げる本棚をつくりたい。いつか私が死ぬまでに、私の生を刻んでおきたい。そう思い、本を一冊買いました。簡単な本です。読書は苦手ですが、少しずつ読み進めています。40 年後の、まだ見ぬ家族を想って。

〔図書の紹介〕

今年も読書感想文の季節が近づいてきました。夏休みの課題として全員に読書感想文を書いてもらい、優秀作品は「青少年読書感想文コンクール」に応募することになっています。「自由読書」と「課題読書」の二つの部門がありますが、その課題図書が決まりました。以下の紹介は読書感想文全国コンクール公式サイトからのものです。川高図書館にも１冊ずつ入りますので、ぜひ読んでみてください。

『ラブカは静かに弓を持つ』（安壇　美緒　著）

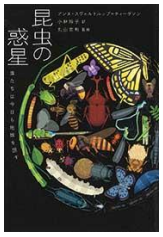
孤独な青年橘は、上司からの命令で音楽教室に潜入調査へ。チェロ講師浅葉の生徒となるが、やがて彼の演奏に魅了され……。

『タガヤセ！日本：「農水省の白石さん」が農業の魅力を教えます』

（白石　優生　著）

農業ってこんなに面白い！

最新の農業から、実はスゴい日本の農作物のこと、さらには日本の農業の未来までを語る１冊。



『昆虫の惑星：虫たちは今日も地球を回す』

（アンヌ・スヴェルトルップ＝ティーゲソン　著　小林　玲子　訳）

ヒトは、多くを昆虫に依存している――。北欧の女性昆虫学者が、奇妙で美しく風変わりな虫たちの世界へ誘うノンフィクション。

〔５月　月間図書貸出冊数〕

〈クラス別〉　　5月１日～5月３１日

１－１	１－２	１－３	２－１	２－２	２－３	３－１	３－２	３－３	合　計
２９冊	４冊	１５冊	１７冊	３冊	１７冊	１冊	２冊	０冊	８８冊

〈個人別〉

１位　１２冊　清水　英磨（２－１）
２位　１０冊　清水　美愛（２－３）
３位　　７冊　宇都宮　妃南（１－１）
３位　　７冊　竹内　夢乃（２－３）

「本を燃やすよりも悪い罪がある。
そのひとつは本を読まないことだ。」

ロシアの詩人、ヨシフ・ブロツキー（1940 - 1996）